

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000562		
法人名	有限会社すいせん		
事業所名	グループホームすいせん川南	ユニット名	2棟
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南19415-1		
自己評価作成日	平成23年3月11日	評価結果市町村受理日	平成23年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kouhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4572000562&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成23年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を3つあげています。また、毎日の朝礼や、定例会にて、問題点や改善策に向けた活発な討論を行い、日々の実践に取りこんでいます。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、地区で行われている「地域ふれあい事業」に参加し、地区の方々との交流を図っています。(本年度は家畜伝染病—口蹄疫—発生にて開催日が限られました)			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月地区で行われている「地域ふれあい事業」に参加したり、運営推進会議の中で呼びかけはしています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、毎回、利用者様の状況や、施設サービスの状況を報告しています。その度にたくさんのご意見を頂き、サービスの向上に活かせるよう努めています。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の訪問を受けたり、毎月、利用者様の状況を報告しています。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵の利用は、利用者の状況に応じて対応し、転倒転落防止に努めており、動態感知センサーなどの使用については、本人、家族の了解の下行っています。身体拘束の説明を行い、同意書を頂くように致しました。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護職の言葉使いなどにおいて問題がある時は、個別指導を行っています。苦情については、会議の中で取り上げ、話し合い、安心してご利用して頂けるよう努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の一部については、研修を通して成年後見人制度の理解は来ています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度十分な説明を行い、ご理解・ご納得を頂くようにしています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。本人、ご家族の苦情や要望などについては傾聴し、又、ケアサービス担当者会議等でもご意見を伺い、管理者、職員に情報提供し、共有を図り、サービスの向上に努めています。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議や毎月のミーティング等で、職員の意見や提案を聞き、施設運営に反映させています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が楽しく、豊かに働けるような環境作り、条件の整備に努めています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に、グループホーム連絡協議会主催の研修会には積極的に参加を勧め、他の研修についても、研修内容を公開し、参加するよう勧めしています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修会等に参加する中で、同業者との交流を図っています。			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族及び関係者から情報収集した上で、落ち着いた場所で、顔がみえるような位置に座り、ゆったりとした状況で、コミュニケーションを図り、気持ちを表出して、不安を取り除けるように努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や、問題点等、話しやすい環境を作り、気になる事があれば、いつでも連絡頂けるように説明し、信頼関係を深めていけるよう努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が、病院受診に付き添えない、家族が高齢で医師の説明が分かり難い等の事情がある場合、ガイドヘルパー事業所の紹介及び連携を行ったり、緊急時等には職員が同行する等、臨機応変に対応するよう努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームが我が家であり、共に手助けできる関係作りに向けて日々努力しています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡は密に取り、面会時には、ホーム内での生活状況について報告し、本人が穏やかに安心して生活できるように支援を行っています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたが面会に来られても、スタッフも笑顔でお迎えし、ゆっくり談笑して頂けるように配慮を行っています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度も重度化されてきており、個別的な対応が多くなってきています。個々の特技を考慮しながらレクリエーションに取り組んでいます。			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院延長等の理由により、退所になられた方などには、ご家族の了解を得て、利用者様の様子を伺いに行ったりする等、本人・家族とも当分連絡を取り合うよう努めています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での様子を観察し、また、会話の中からその方の「思い」を知るように心がけ、スタッフ間で共有できるよう、伝達しあい、その方の意向に沿えるよう努めています。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の（在宅時や入院時等）の情報を収集し、続けて来られた生活習慣を大事にしていきます。入所後も、面会時等の様子等から、お好きな物・事等を把握していけるようにし、楽しみや自信に繋げていけるよう努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前、午後・夜間の状態観察・把握に努め、その個別記録、報告を行い、スタッフ間で共有し、状況に応じた支援が行えるよう努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のみならず、ご家族の面会などの際に気付かれた事等をお聞きしたり、スタッフに必要な事は報告し、また、定例会（全スタッフ出席）で検討した事等を介護計画に反映し、毎月モニタリングを行っています。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午前、午後、夜間の様子や気付いた事をそれぞれの勤務者が個別に記録し、支援経過記録にも取り入れ、情報の共有と把握に努めています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人に日頃と違った様子が見られた時等、家族に様子を聞いたり、看護師（ケアマネ）と相談し、病院受診の方がいい場合、病院受診に同行し、必要な情報を医療関係者、本人、家族、スタッフとも共有できるようにしています。			

宮崎県川南町 グループホームすいせん川南（2棟）

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のふれあい事業へ参加したり、介護相談員の訪問、幼稚園、小、中学校との交流・慰問などの協力があり、入居者様も楽しく過ごされています。民生委員、地区役員の方とは、運営推進会議にて交流を図っています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望される病院を受診時、外来情報提供書にて連携を図っています。家族が同行できない場合、ガイドヘルパーの紹介をして、専用ノートでヘルパーとの連携を図ったり、相談ごと発生時はケアマネも同行しています。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の検温、入浴、日誌等での申し送り健康状態を把握して、気付いた事を看護師(ケアマネ)に相談、介護の方法や、医療機関受診等の助言を受けており、定例会でも医療面の報告を行い、健康管理、医療支援に努めています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急入院時はもちろん、入院されるに至った時は、基本情報提供書にて連携を図り、面会して回復状況の確認を行ったり、困りごとの相談を受けたりして、家族・病院関係者と情報交換し、早期に退院できるように努め、退院後の生活支援についても話し合っています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の関わりの中で、体調変化に対する気づきの目を養い、早期の対応に心がけています。看取りの介護は実施しておらず、入院後、ホームで受け入れが難しい状況になられた為、やむなく退所に至ったケースもありました。緊急時の事前確認書を作成し、実施しています。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時のマニュアルを作成しており、家族、救急車の要請、他の職員への職員への対応依頼など、連携は取れています。応急手当の訓練は実施できていません。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間もしくは昼間を想定した避難訓練を行い、常日頃からシュミレーションをして、災害時に備えるよう訓練を行っています。地域の消防団や地元住民の協力を得られるよう、地区の班長さんをお願いをしています。			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を使って会話を行っています。トイレを使用される際は、ノックをしたり、きちんと戸をと閉める、膝かけを利用する等、プライバシー保護に努めています。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向に添う言葉かけ、「どうしたいですか？」とお聞きし、「一緒に致しましょう、行きましょう」等と声かけ、安心した表情で行動できるよう心がけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を伺いながら、ご本人の希望に沿ったレクリエーションを考慮、休息希望時は、ソファ、和室、居室等自由に選んでいただき、休んで頂いています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の美容室訪問があり、散髪していただいている。化粧品類(乳液、化粧水)は、希望に応じて家族に連絡したり、スタッフが購入している。ボタンが外れていたり、ゴムがゆるくなっている衣類は、その都度手入れしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時には、希望をお聞きする。旬の物を取り入れての誕生日、行事食の提供に努めています。魚肉の苦手な方には代替りの物をお出しし、お好み焼き、ホットケーキ作り等、一緒に行っています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量、水分摂取量のチェックを行っています。個々の状況を判断し、食事形態を考慮、トロミ剤など使用し、摂取量が増えるよう努めています。毎月の体重測定、定期受診時の検査データも参考にしています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回、毎食後に声かけして行って頂いているが、手入れが不十分な方には、声をかけながら介助している。舌ブラシの必要な方には購入していただき、舌の手入れも行っています。			

宮崎県川南町 グループホームすいせん川南（2棟）

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の介護記録から排泄チェックを行い、排泄パターンを把握し、又、排泄サインを見逃さないように心掛け、声かけトイレへの誘導を行っています。申し送り時は、必ず最終排便の確認を行っています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立作成時には、食材や、栄養バランスを考慮しています。毎日、低脂肪牛乳をお出しし、リハビリ体操などを行っています。個別的には散歩して頂いたり、歩行訓練等で身体を動かして頂いています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回とし、利用者様の希望を考慮し、時間を調整しながら、リラックスでき、爽快感が得られるよう支援しています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間は希望による支援を行い、ベッドに不慣れな方には、畳を置き、布団で休んで頂き、足に浮腫のある方には、日中は足上げ休息を行って頂いています。温・湿度、換気、寝具の調整、寝具干し、洗濯を行っています			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書が添付されているので参考にし、服薬については、準備段階から服薬までのダブルチェックを行っています。下剤の服用は、便の政情を確認しながら服用していただき、うまくコントロールできています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みや、趣味に応じたレクリエーション(塗り絵、裁縫、DVD鑑賞、散歩、歌、編み物等)を行って頂き、役割としては洗濯物たたみや、料理の下ごしらえなどを行って頂いています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	花見ドライブを行ったり、天候や、体調の良い日は散歩したり、お盆、彼岸、正月には家族と連絡を取り、協力を頂きました。。			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でバックの中に所持されている方もいて、紛失されないよう見守っています。物品購入希望のある時は、一緒に行ったり、代行で購入する事もあります。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけられたり、電話の取り次ぎの支援を行っています。知人や家族にハガキなどを書かれる時は、一緒に文面を考えたり、ポストに投函しに行きました。届いたハガキは、居室内に貼り、いつでも見られるよう二しています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候、時間帯に合わせて、空調、空気清浄機、加湿器など使用・調整しています。テーブルには四季折々の花を生けており、壁には季節に応じた展示物、手作りカレンダーなども張ったりしています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にソファ2組設置し、横になったりしてくつろがれています。グループ別にレクリエーションを行ったり、日頃の様子を観ながら、テーブルの席替えや、配置換えを行ったりと工夫しています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた馴染みの物品を置かれており、ご家族の写真や、お気に入りのポスターを壁に貼られたり、居室で鉢に植えられたお花などのお世話をなさったりしています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に本人の氏名記入、トイレ、洗面所の明記、トイレ、廊下には手すりを設置、玄関には靴を履き替えるときに、安全に出来るようベンチを設置しています。			